

## 平成30年度 第2回中野市健康づくり推進協議会 会議経過書

平成30年8月30日（木）

午後1時30分～

会議室 42

- 出席委員 鈴木 章彦委員、高野 次郎委員、古田 充博委員、東本 雅之委員、豊田 建一委員、岡田 保雄委員、池田けさ子委員、小林貴三子委員、吉池 照子委員、和田 健一委員、土屋 雅彦委員、吉見 和彦委員（12名）
- 欠席委員 高橋 智子委員、武田せつ子委員、洞 和彦委員、金子 初男委員（4名）
- 事務局 斉藤健康福祉部長、佐野健康づくり課長、小林健康づくり課長補佐兼健康管理係長、早見保健医療推進係長、塚田母子保健係長、外山主査、有賀主査、高木主査（8名）

1 開 会 13:30 佐野課長（武田副会長欠席のため、以後進行）

2 あいさつ 鈴木会長、斉藤健康福祉部長

3 協議事項 進行：鈴木会長

(1) 「2018健康づくりフェスティバル」について

- ・フェスティバル全般について
- ・健康コーナーの運営について
- ・健康づくり実践賞の該当者の選考  
(説明者：早見保健医療推進係長)

○ 古田委員 健康づくり実践賞の推薦者については定期的に歯科を受診し検診を受けており、本人の意識が高く、模範となることから推薦した。

● 出席者全員の賛同を得て、H30健康づくり実践賞の受賞者について、推薦どおり決定された。→高橋詩朗 1者

(2) 平成30年度こころの標語の審査

(説明者：小林健康管理係長)

一人の方が複数の作品を応募された場合、入選は1点としている。複数入選した場合は一方を除外させていただく。3位が1位の方と重複しているため優秀賞から除外させていただきたい。

○ 鈴木会長

年々応募数が減っているし、内容がマンネリ化している。自殺を予防したいとの思

いから実施していることだが、標語を見て防げるかというとな難しい。例えば学校でのいじめで誰が一番責任があるかというとな、気付いているのを見て見ぬふりをする周囲の人だと思ふ。そういう人たちにこの問題をアピールしていかないと自殺は減っていかないと思ふ。標語の対象者を変えろとは言わないが、毎年同じような標語で、ただ漫然と続けていくことが良いのかどうか考えてほしい。

同じ方を重複して選べないとのことだ、3位の作品を除外とし、1位を最優秀賞、2位と4位の2作品を優秀賞とすることだよいか？

- 出席者全員の賛同を得て、資料順位1位を最優秀賞とし、2位と4位の2作品を優秀賞とすることに決定された。

(3) 中野市食育推進計画（第3次）の素案について  
（説明者：小林健康管理係長） 別冊資料

- 東本委員 P48の身近な食育13の行動目標について、大事だと思ふが目標が多く、ポイントを絞って数が少ない方が実践しやすいのではないかと。
- 鈴木会長 計画策定後、具体的にどのように市民の方に周知していくかが大事である。
- 佐野健康づくり課長 ダイジェスト版を全戸に配布する予定。
- 有賀主査 行動目標について、対象となる方によってアプローチが変わってくる。その中で重点部分を抜き出し、例えば学校では食育の話をする機会があり、保護者等へ実践を交えながら周知できればと考えている。
- 鈴木会長 中間の層、働いている世代へ伝えることが難しいと思ふ。
- 有賀主査 保護者であれば保護者参観等の機会や食生活改善推進協議会員により地域に伝えていきたいと考えている。
- 鈴木会長 子どもに伝えるにはまず親の教育が重要。13の項目があるが、それぞれの世代で重点項目が違ふので、その中で項目を選び強調して指導していったらほしい。
- 吉池委員 市民一人一人が実行しなければ周知した価値にならないと思ふ。紙面で配布したから終わりではなく、飲食店と連携しながら等具体策が欲しい。
- 有賀主査 長野県のACEプロジェクトで、適量なエネルギー量、塩分量で健康に配慮したメニューを提供する飲食店を地域の登録店として増やそうという取り組みがあり、飲食店と関わる際に照会するなど、少しずつ意識を高めていけたらと考えている。
- 池田委員 学校で保護者に話をする機会では、店で買ってきたおかずには野菜を添えたり、濃い味と薄い味のものをつけるなどバランスを取ってほしいと話している。子どもたちには店で買ってくるおかずの味を憶えさせるのではなく、できるだけ手作りしてほしいと話しているが、現実ではなかなか難しいと感じている。
- 鈴木会長 計画を周知させるためには、なぜ今の食事ではいけないかということの説明から入らないと皆気を付けようとはならない。計画を見たときに良いことを書いてあるなと思ふが、他人事として捉えてしまうと思ふ。文章に入れてほしいということではないが、P34からは総括として、所々

で問題意識を持たせようとしているが、ぼやけた表現になっている。食生活が原因となり起こる、一生付き合いなければならない病気がたくさん分かってきている。人間は恐怖心を憶えないと病識を憶えないと気を付ける意識が起こらないため、そういう啓蒙の仕方をしながら進めてもらえれば、なお計画が活かされるのではないかと思う。

9月14日まで事務局で質疑、指摘等を受け付けている。次回の協議会で最終案を諮り、パブリックコメントを経て、決定、公表となる予定である。

#### 4 その他

##### ○ 佐野健康づくり課長

次回開催は、11月頃を予定している。健康づくりフェスティバルの実施報告と食育推進計画の最終案についてお諮りいただく予定。

今年度の協議会は、次回が最終の予定。

5 閉 会 14:30 佐野課長